

Festival del Cinema Italiano 2009 Tokyo

イタリア映画祭2009

日本劇場未公開の最新のイタリア映画12本を一挙上映

「日本におけるイタリア年」をきっかけに、2001年春に始まったイタリア映画祭は、今年で9回目を迎えます。多くの映画ファンやイタリアファンに支持され、毎年1万人を超える観客が訪れるゴールデンウィーク恒例の映画祭に成長しました。今年、2007年に降に製作された新作12本が上映されます。是非この機会に、現代のイタリア映画をお楽しみください。

上映作品	A 「よせよせ、ジョニー」	B 「ソネタウラ―“樹の音”の物語」	C 「見わたすかぎり人生」		
	D 「私を撮って」	E 「イル・ディーヴォ」	F 「赤い肌の大地」		
	G 「パラ・ダ」	H 「ブッチーニと娘」	I 「やればできるさ」		
	J 「運命に逆らったシチリアの少女」	X 「ゴモラ」	Y 「ジョヴァンナのパパ[原題]」		
	a 「ミケランジェロのまなざし」(短編)				
上映プログラム	4月30日(木)	12:00~ A	15:00~ J	18:00~ C	
	5月 1日(金)	10:20~ a+H	13:10~ I	16:00~ G	18:40~ Y
	5月 2日(土)	10:20~ D	13:00~ E	15:20~ 座談会	18:00~ B
	5月 3日(日・祝)	10:20~ F	13:10~ C	16:00~ a+H	18:30~ J
	5月 4日(月・祝)	10:20~ A	13:05~ B	16:30~ G	18:55~ E
	5月 5日(火・祝)	10:20~ I	13:15~ D	15:35~ F	18:10~ X

※短編がある回は、短編、長編の順番で上映します

すべて日本語字幕付きの上映です。上映は各回入れ替え制、定員750名、開場は上映30分前です。座談会は入場無料です。4月30日(木)18:00~の上映前に開会式(約30分間)があります。4月30日(木)~5月2日(土)は、来日ゲストの舞台挨拶を予定しています。来日ゲストは決まり次第、ホームページ(<http://www.asahi.com/event/it09>)で発表します。

How to buy ticket!

入場料 ※前売券・当日券全席指定

	前売1回券 (日時指定)	当日1回券 (日時指定)
一般	1,400円	1,600円
学生・60歳以上	1,300円	1,500円

指定席配置図



- : 舞台前区域
- : 前方区域
- : 中央区域
- : 後方区域

前売券をお買い求めの方へ

- 発売日: 3月21日(土)10:00から
(コンビニエンスストアは発売初日のみ11:00から)
- 購入方法: ①お近くのチケットぴあ窓口で直接購入
②電話予約後、店頭で受け取り
チケットぴあ/音声認識予約:0570(02)9999
(10:00から23:30)
③ファミリーマート、サークルK、サンクスで直接購入
- Pコード: 1回券=555-070

「プレリザーブ」(インターネット先行抽選販売)について

- 各回の1回券はプレリザーブのお申し込みができます。
- 受付開始は3月14日(土)11:00、受付終了は3月19日(木)11:00、抽選は3月19日(木)夕方。
- 詳細は、@電子チケットぴあホームページをご参照ください。
<http://t.pia.jp/cinema/cinema.html>



指定席について

- 全席指定です。
- 4区域「舞台前」「前方」「中央」「後方」のいずれかを選んでご購入いただけます。なお、「舞台前」の席は可動席です。
- 上映開始後は場内が暗いため、お手持ちのチケットの指定席のご案内できない場合がございます。上映開始時刻に遅れないようご来場ください。

注意事項

- 前売券の電話予約は各上映の5日前までです。
- 直接購入は各上映の2日前までとなります。
- 前売券の払い戻し、交換、再発券はいたしません。
- 当日券はその日の上映分を9:30(初日は11:00)から発売します。
- 前売券が売完の回も、当日券を発売します。
- 高・専・大生、60歳以上の方は、チケット購入時及びご来場時に必ず身分の証明となるものをお持ちください。



Festival del Cinema Italiano 2009 Tokyo

2009.4.30(木) - 5.5(火) 祝 有楽町朝日ホール

主催: イタリア映画祭実行委員会、イタリア文化会館、朝日新聞社、フィルムイタリア 後援: イタリア大使館、イタリア文化財・文化活動省
協賛: 株式会社シネフィル、スカパーJSAT株式会社、協力: バリラジャパン、クラブツーリズム株式会社 運営協力: エミュー 宣伝協力: 楽舎
字幕協力: アテネ・プランセ文化センター お問い合わせ: 03-5777-8600(ハローダイヤル: 3月1日~4月29日) 03-3213-8610(全場、会期中のみ)

<http://www.asahi.com/event/it09>



Festival del Cinema Italiano 2009 Tokyo

イタリア映画祭
2009

イタリア映画の世界を読み解く鍵

岡本太郎

目と耳に自由に訴え、霊感溢れる自然や都市の風景があり、人の顔や声や仕草があり、物語のある映画がイタリアの名産品として地上に返り咲いてはや十年程になるが、この一年の更なる進化と多様性には、改めて驚かされる。

かの政治大国にあって与党キリスト教民主党に神がかり的に君臨したアンドレオッティ元首相の「類稀なる人生」を、シュールなまでにピカレスクに観せるソレンティーノの超絶的な「イル・ディーヴォ」。カモッラによる組織犯罪が日々の通奏低音としたナポリの凄まじい顔を、街に生きる者の生活から虚飾も容赦もなく浮かび上がらせたガッローネ渾身の「ゴモラ」。若き二大巨匠の作品はカンヌ映画祭を震撼させた。

サルデーニャ特有の土や風の匂いとゆるやかな時の流れと命の温もりの中で羊飼いの少年の生きざまを見つめるメレウの叙事詩「ソネタウラ—樹の音」の物語」と、映画芸術の可能性を追求し続けるベンヴェヌーティが、トスカーナの美しい湖畔を舞台に光と影と音楽の風雅な時を現出させる「プッチーニと娘」の、滔々とイタリア的な詩情。

パゾリーニを思わす乾いた寓話風の直観的な語り口で奥アマゾンの悲劇を綴るベキスの「赤い肌の大地」と、ドキュメンタリーやネオリアリズムの持つ観る者の感情をじかに揺さぶる端的な映像言語でマフィアに立ち向かった少女の抗う魂を描いたアメンタの「運命に逆らったシチリアの少女」の感動と衝撃。

あり得ない夢を胸にパリから来た道化師とルーマニアのマンホールチルドレンの凍てつき、温かく、熱く、哀しく、優しい心の物語を、実話に基づいて映像化したポンテコルヴォの「パ・ラ・ダ」と、やはり80年代ミラノの史実をもとに、元精神病患者たちと彼らの共同体に配属された革新的労働組合員の、やはり夢のような現実のような信じがたい野望の顛末を、本物の涙と笑いで物語るマンフレドニアの「やればできるさ」が思い出させてくれるイタリア映画の良心。

そしてイタリア式喜劇の怒濤の奔流を体現するヴィルツィが「見わたすかぎり人生」で、才色兼備のスーパー新卒女子を主人公に非正規労働問題を縦横無尽に説き、初の長篇監督作に挑んだ稀代の名優ベントイヴォリョは、不思議の国にでも住んでいるような目をした田舎のギター少年が往年のフェリーニ映画のような不可思議な世界に足を踏み入れてゆく颯々と絶妙な味わいの冒険譚「よせよせ、ジョニー」で魅了する。

卓越したテンポに闊達な台詞回し、しなやかな情感と共にうつろう恋愛の悲喜劇を女性性のやわらかく鮮やかに醒めた視線で語るネグリの「私を撮って」はイタリアの今を語り、アヴァーティの「ジョヴァンナのパパ(原題)」は、ゴシックな憂いを帯びた郷愁のローニャという銀幕映える風景と大戦前後の波乱と人生の矛盾の中で翻弄される父と娘と母の姿を一見伝統的な独自の手法で表す。

どれも異なる世界への扉で、読み解く鍵を探るのは映画の醍醐味だ。



2007年
104分

よせよせ、ジョニー

ファブリツィオ・ベントイヴォリョ監督
Lascia perdere, Johnny! (Fabrizio Bentivoglio)

イタリア人俳優屈指の伊達男ベントイヴォリョが、監督に初挑戦した音楽への憧憬と愛情に満ち溢れた秀作。1976年、ナポリ近郊の小さな町で、未亡人の母と二人暮らしの内気な18歳の青年ファウステイーノに、兵役が近づいていた。兵役免除の唯一の条件は、職に就いていることを証明すること。ギターを演奏していたビッグバンドも解散が決まり、別の仕事を見つける必要があった。甘くノスタルジックな調べに乗って、青年の歩みがゆったりとユーモラスに辿られる。



2008年
110分

イル・ディーヴォ

パオロ・ソレンティーノ監督
Il divo (Paolo Sorrentino)

7期に渡って首相を務める一方で、裁判にもかけられ物議を醸した戦後イタリアを代表する政治家の一人、ジュリオ・アンドレオッティ元首相を題材に、イタリア政界の裏側を描くソレンティーノ渾身の一作。圧倒的権威に驕りが見え始めた元首相の議員生活の晩年がスタイリッシュな映像で切り取られる。元首相を怪演するのは、ソレンティーノ作品に3度目の出演となる名優トニ・セルヴィッコ。08年カンヌ国際映画祭で審査員賞を受賞。



2008年
111分

やればできるさ

ジュリオ・マンフレドニア監督
Si può fare (Giulio Manfredonia)

法律によってイタリアで精神病院の全廃が進められていた1980年代のミラノ。労働組合員のネッロは、革新的な考えのために疎まれ、元精神病患者たちがいる施設に左遷される。精神病の知識は何もないが、元患者たちと平等に接するネッロ。労働の尊厳を固く信じている彼は、元患者たちの背中を後押しして事業を立ち上げようとする。一体となって困難を乗り越え、理想に向かっていく前向きな姿に励まされる実話を基にした喜劇。08年ローマ映画祭招待作品。

※上映作品はイタリア側の都合により、変更の可能性があります。
※上映作品はこの映画祭のために輸入するプリントのため、英語字幕が入っている可能性があります。



2008年
157分

ソネタウラ—“樹の音”の物語

サルヴァトーレ・メレウ監督
Sonetula (Salvatore Mereu)

前作「スリー・ステップ・ダンス」と同じく生まれ故郷のサルデーニャを舞台に選び、撮影に約7ヶ月も費した俊英メレウの意欲作。1937年、父が誤って逮捕されたため、12歳にして父の後を継いで羊飼いで働くことになったソネタウラ(樹の音)というあだ名の少年は、18歳の時に人生を大きく狂わせる事件を起こしてしまう。サルデーニャ山岳地帯の大自然を背景に、懸命に生き抜こうとする少年の半生が壮大に描かれる。08年ベルリン国際映画祭パノラマ部門出品。



2008年
108分

赤い肌の大地

マルコ・ベキス監督
La terra degli uomini rossi (Marco Bechis)

「イタリア映画祭2004」で上映された「子供たち」以来、鬼オマルコ・ベキスが久々に発表した力作。ブラジル南部の農園で、慰留区に閉じ込められ、貧困や自殺者の増加に苦しむ先住民は、先祖の土地に移り住むことにする。だが、そこは今や入植者の所有地。先住民と入植者の間で争いが生じるが、その一方で交流も始まる。先住民が抱える問題が作品の底流にありつつ、彼らの生き方がユーモラスかつ力強く描かれる。08年ヴェネチア国際映画祭コンペ部門出品。



2008年
110分

運命に逆らったシチリアの少女

マルコ・アメンタ監督
La siciliana ribelle (Marco Amenta)

ドキュメンタリーで高い評価を受けてきたアメンタが、実話に基づいて監督した初の劇映画。シチリアの少女リタは、マフィアのメンバーだった父と兄を、内部抗争で失ってしまう。復讐に燃えるリタは、17歳の時に危険を顧みずマフィアの実情を検事に告発する。だが、その日からリタの命は狙われ始めるのだった。マフィアに立ち向かう少女の胸を打つ勇姿を、名撮影監督ルカ・ピガッツィのカメラがリアルに捉える。08年ローマ映画祭都会のアリス部門出品。



2008年
117分

見わたすかぎり人生

パオロ・ヴィルツィ監督
Tutta la vita davanti (Paolo Virzi)

「イタリア映画祭」で上映された「カテリーナ、都会へ行く」「N-私とナポレオン」のヴィルツィ監督が、女性作家自身の人生体験に基づく小説を脚色した喜劇。優秀な成績で大学を卒業したが、正社員の職にはなかなか就けないうマルタ。ようやく見つけたのは、コールセンターでのパートタイムの仕事だが、そこには厳しい競争原理が導入されていた。テーマは非正規雇用という現代社会の深刻な問題だが、笑いで包み込まれ、一級のエンターテインメントに仕上がった。



2008年
100分

パ・ラ・ダ

マルコ・ポンテコルヴォ監督
Pa-Ra-Da (Marco Pontecorvo)

心がずさんでいた子供たちが、一人の外国人との出会いによって人間性を取り戻していく実話に基づいた。ポンテコルヴォ監督の初の長編感動作。チャウチェスク政権崩壊から3年、ルーマニアのブカレストには、ストリートチルドレンがあふれていた。盗み、売春、ドラッグ、喧嘩といった問題が絶えない日々。パリから来た道化師のミルーは、サーカスを組織することによって、劣悪な環境から彼らを救い出そうとする。08年ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品。



2008年
135分

ゴモラ

マッテオ・ガッローネ監督
Gomorra (Matteo Garrone)

原作者のロベルト・サヴィアーノがマフィアから命を狙われるいわくつきの衝撃作。暴力と血と金に塗れたナポリの犯罪組織「カモッラ」の実態と、マフィアの掟に従わざるをえない市民の実情が、並列的に語られる5つのストーリーとともに、仮借なくまざまざと映し出される。08年カンヌ国際映画祭でグランプリを獲得し、「イル・ディーヴォ」とともに、イタリア映画の次代を強く印象付けた。また、本年アメリカアカデミー賞イタリア代表にも選ばれた。



2008年
93分

私を撮って

アンナ・ネグリの監督
Riprendimi (Anna Negri)

ドキュメンタリー作家の男二人組は、ショービジネス界における雇用の不安定さについて映画を作ることになる。被写体は、役者と映画編集者の夫婦。だが、二人は争いを起こし、撮影は予期せぬ方向へ進む。現代イタリアの若者たちが置かれている先が見えない実情を、悲観に陥ることなく、軽妙なタッチで映し出すのは、本作が長編2作目となる女性監督アンナ・ネグリの。妻を演じるのは、旬の若手女優アルバ・ロルヴァケル。08年サンダンス映画祭出品。



2008年
84分

プッチーニと娘

パオロ・ベンヴェヌーティ監督
Puccini e la fanciulla (Paolo Benvenuti)

1909年、トスカーナ地方で、ジャコモ・プッチーニはオペラ「西部の娘」の作曲に取り組んでいた。その矢先に、彼の浮気容疑をかけられたメイドのドーリアが自殺する事件を、ベテラン監督ベンヴェヌーティが新解釈したプッチーニ生誕150周年記念作品。会話を省き、手紙を読むモノローグと自然音だけの音響空間と、流麗なカメラワークで風景を映す映像世界が、見事なまでに澄み切っていて心地良い。08年ヴェネチア国際映画祭特別招待作品。



2008年
104分

ジョヴァンナのパパ(原題)

プーピ・アヴァーティ監督
Il papà di Giovanna (Pupi Avati)

1938年、ボローニャ。美術教師として働くミケーレの最大の関心事は、可愛くて仕方がない一人娘のジョヴァンナだった。順調に見えた生活だったが、ある出来事で一変してしまう。第二次世界大戦前後という激動の時代にあらわれる父と母と娘の三人家族の人生を、名匠アヴァーティが格調高く描いた本作は、本国でヒット。父親役を好演した名優シルヴィオ・オルランドは、08年ヴェネチア国際映画祭で主演男優賞に輝いた。2010年公開予定。

短編作品

a 2004年
15分

ミケランジェロのまなざし

ミケランジェロ・アントニオーニ監督

Lo sguardo di Michelangelo
Michelangelo Antonioni